

## 29【B】1601

### キラル Pd(II) 触媒によるアルキニルジオールおよびジケトンの非対称化 Desymmetrization of Alkynyl Diol and Diketone by Using Chiral Pd(II) Catalyst

○加藤 恵介<sup>1</sup>, 秋田 弘幸<sup>1</sup> (<sup>1</sup>東邦大薬)

パラジウムπ-オレフィンまたはπ-アルキンの分子内環化反応は、種々のヘテロ環合成に有用な手法として知られている。一方、このパラジウムπ-アルキンの分子内環化反応にカルボニル化反応を組み合わせれば、導入容易なアセチレンユニットをβ-ケトエステルユニットへ変換でき、ヘテロ環合成のみならず、脂肪族化合物の合成にも利用できると考えられる。このような考えに基づき、すでに我々は、Pd(II) 触媒によるアルキノール、アルキニルケトンおよびプロパルギルアルコールの環化-カルボニル化反応の開発とその天然物合成への応用に成功している。そこで本反応をキラル Pd(II) 触媒を用い、対称ジオール **1** または対称ジケトン **2** に適用すると、エナンチオトピックな二つの水酸基またはカルボニル基の識別と同時に、アセチレンユニットが、β-ケトエステルユニットへ変換される。この成績体 **3**, **4** は、プロリンを用いたエナミン合成法の適用できない、ビスクロジケトン類 **5** へ導くことができる。本講演では、これらの反応に及ぼすリガンドおよび溶媒の効果の詳細について発表したい。

